

水槽付消防ポンプ自動車（I－A型）仕様書

岐阜市消防本部

第1 総 則

- 1 本仕様書は、岐阜市消防本部（以下「本部」という。）が令和4年度岐阜南消防署柳津分署に更新配備する水槽付消防ポンプ自動車（以下「車両」という。）の製作及びそれに関する一切に適用する。
- 2 契約にあたっては、本仕様書を十分熟知するとともに、疑義の生じたときは、必ず本部に質問すること。
なお、契約後生じた疑義については、双方協議し定めるものとする。
- 3 車両は、この仕様書に定める他、車両の規格等、関連法令、基準に適合するとともに、完成後は、道路運送車両法（昭和26年法律第185号）及び道路運送車両の保安基準（昭和26年運輸省令第67号）に適合し、緊急自動車として承認が得られるものであること。
- 4 車両は、緊急消防援助隊設備整備の災害対応特殊水槽付ポンプ自動車の補助対象規格に適合すること。
- 5 着手にあたり受注者は、本部と製作上細部にわたり十分な打合せを行いその指示を受け、次の図書等を提出して承認を受けること。
 - (1) 承認図等（契約締結後8週間以内）

ア 製作承認図（5面 前・後・上・左・右）	2部
イ 製作工程表	2部
ウ 諸元性能一覧表（ポンプ鑑定書写含む）	2部
エ 配管図及び特装部の配線図	2部
オ その他本部が指示する図書（ポンプ鑑定書写）	
 - (2) 完成車納入時（キングファイル No.1473×2冊）

ア 車両点検整備説明書（車両修理書）	1部
イ 動力消防ポンプの点検整備書及びパーツリスト	1部
ウ 取付け装備品及び機器の保証書	1部
エ 自動車検査証等の写	1部
オ 写真（外観四面）	1組
カ 重量実測証明書・転覆角度実測証明書 悪路走行試験検査証明書 （新規登録検査前に提出すること。）	1部
キ その他本部が指示する図書	
- 6 製作に伴う諸種の理由で本仕様書に変更を必要とするとき、あるいは疑義の生じた時は直ちに本部に連絡のうえ、その指示を受けること。

- 7 製作にあたっては、次の点に留意すること。
- (1) 車体は、常時登録された車両総重量の状態において十分耐え得るものであり軽量頑丈優美であること。
 - (2) 取扱操作が簡単であり、点検及び整備が容易に行えること。
 - (3) 製作艱装全般にわたり厳重検査を実施すること。

第2 概要

- 1 この車両は、キャブオーバー型ダブルキャブの後方にポンプ室、水槽（1,500ステンレス製）器材収納室、自動昇降装置付加納式ホースカーを備えた車両であること。
- 2 ダブルキャブの助手席及び後部座席背部に、隊員がその位置で簡単、迅速に空気呼吸器が装着できる取付け装置を設けること。
- 3 ポンプは、シャーシー固有の動力伝達装置で駆動する高圧二段バランスタービンポンプを装備し、井戸、河川、消火栓等の水利から強力な放水ができ、火災、その他あらゆる災害に迅速、かつ的確に活動し得る構造であること。
また、長時間の連続放水等で、排気ガス浄化装置が自動再生又は、手動再生ができて活動に支障をきたさない構造であること。
- 4 車両の隊員席にエアコンディショナーを設けること。

第3 仕様

1 シャーシー

(1) シャーシー型式

ア シャーシー	5.5t ダブルキャブ型（消防車仕様とする）
イ ホイルベース	3,600mm 以上 4,000mm 以下
ウ エンジン	ディーゼルエンジン（新長期規制値をクリア）
エ 駆動方式	後輪駆動（オートマチックトランスミッション）
オ 全長、全幅、全高	7,200mm×2,500mm×3,000mm 以下 （できる限り、車両をコンパクトに作成すること。）
カ 乗車定員	6名
キ 車両総重量	11,000kg 未満

(2) シャーシー装備品

ア 動力伝達装置	PTO
イ エンジンガバナ	オールスピード式
ウ オイルクーラー	
エ 補助クーラー	
オ 電圧計	
カ ジェネレーター	24V-80A 以上
キ バッテリー	24V-120AH 以上×2 個
ク カーラジオ	AM/FM 付
ケ サイドバイザー	各ウインドーに取付

- コ 助手席にサンバイザー取付
- サ スノータイヤ（全輪）
- シ サイドミラーに補助ミラーを取付
- ス ディスチャージ式ヘッドランプ若しくは、LED式ヘッドランプ
- セ 電波式ドアロック開閉装置

(3) 附属品

- ア スペアタイヤ
- イ 自動車標準工具
- ウ 停止表示板

2 艀装材料は、次に掲げるもの又はこれらと同等以上の強度及び耐久性を有するものを使用すること。

日本工業規格（工業標準化(昭和 24 年法律第 185 号)第 17 条第 1 項の日本工業規格をいう。以下同じ)

部 品 名		材 料	
ポ ン プ	羽 根 車	日本工業規格	H5120（銅及び銅合金鋳物）
		〃	H5121（銅合金連続鋳造鋳物）
	ポンプケース	〃	H5120（銅及び銅合金鋳物）
		〃	H5121（銅合金連続鋳造鋳物）
		〃	G5501（ねずみ鋳鉄品）
		〃	H5202（アルミニウム合金鋳物）
	ポンプ軸	〃	G4303（ステンレス鋼棒）
		〃	G4102（ニッケルクロム鋼鋼材）
	真空ポンプ	〃	H5120（銅及び銅合金鋳物）
		〃	H5121（銅合金連続鋳造鋳物）
		真空ポンプ軸	〃
	重要動力伝導軸 重要動力伝導歯車	〃	G4051（機械構造用炭素鋼鋼材）
		〃	G4052（焼入性を保証した構造用鋼鋼材（H 鋼））
	水槽	〃	G3101（一般構造用延鋼材）
吸・吐水用配管	〃	G5501（ねずみ鋳鉄品）	
	〃	G3452（配管用炭素鋼鋼管）	
ホースの結合用ネジ部	〃	H5120（銅及び銅合金鋳物）	
	〃	H5121（銅合金連続鋳造鋳物）	
	〃	H5202（アルミニウム合金鋳物）	
車の構成材	〃	G3101（一般構造用延鋼材）	
注通水内面には、防食処置を施すこと。（ただし、銅及び銅合金部分を除く。）			

3 主ポンプ

(1) 高压二段タービンポンプとする。

性能は、国の定める A-1 級の規格に合格するとともに、次の数値以上の性能を有すること。

ア 規格放水量 送水圧力 0.85MPa において 2.8 m³/min 以上

イ 高压放水量 送水圧力 1.4MPa において 2.0 m³/min 以上

(2) ポンプは、シャーシーに確実に固定し、振動等によって移動又は破損等が生じないように取付け、特にエンジンマウンティングの影響により支障のないよう留意すること。

(3) 主羽根車

羽根は、斜流型であって、軸上に向かい合って組合せ高压発生の場合でも軸に横押しの力がかからず、羽根及び水路の肌は滑らかで高性能を発揮すること。

(4) ガイドベーン

羽根及び羽根の周囲に設けられた水路は高压性能に適した合理的な構造であること。

(5) グランド部の漏水は、一切の構造機構にかからぬよう、パイプを以て下方に導くこと。

(6) グランドパッキンは、手入れ及び締付けが容易に出来る構造とすること。

(7) 軸受部は、グリス注油装置を設けること。

ア 注油部は、ポンプシャフトメタル部及びグランド部とする。

イ 注油装置は、カップ圧送式とすること。

(8) ポンプ本体下部にドレンコックを設けること。

ア 各段毎に設けること。

イ コック操作は、PTO と連動とする。(電磁バルブに手動式バルブを取り付けること)

ウ 排水が車両構造等にかからないよう配慮すること。

4 真空ポンプ

ピストン式または、偏芯ロータリー式真空ポンプ

(1) 性能

回転数 1,200rpm 吸管 (75mm×10m) 外端部閉塞にて次の数値とする。

ア 30 秒以内に試験時大気圧の 84%以上

イ 漏気は 30 秒間 1.3KPa 以下

(2) 動力伝達装置は、機能確実に振動及び騒音が少なく歯付ベルトによりスムーズな伝達ができる構造で、完全揚水 (水圧 0.3MPa 以内) と同時に自動的に停止するものであること。

(3) 非常用の別系統スイッチを車両右側に設けるものとする。

(4) 気水分離機を必要としない構造とし、吸水配管内の空気を効果的に排出するエアチャンバ方式とする。

(5) 車両軽量化のためにケーシングはアルミ製とすること。

5 主ポンプ伝導装置 (シャーシー固有のもの)

(1) 本伝導装置は、主ポンプへの伝導を容易に接断し、走行用の動力を任意かつ

容易に切替え得る構造とする。

- (2) ポンプ回転時は、エンジクラク軸から直接動力を伝え、高効率で操作容易なものとする。

6 吸水口

- (1) 吸水口は、ポンプ室両側に各一個設け、90mm ボールコック付きとし、それぞれストレーナーを設けるものとする。
- (2) 吸水口にはエルボを取付け（速消ボックスに当たらないこと）、これに 75mm×10m のソフト吸管を接続し、車体両側に収納装置（吸管ブラケット）を設け固定する。
なお、ブラケットは 90° 下側へ開き、ストレーナー取付け部が下になるようにすること。
- (3) 吸水配管は、流水抵抗をできるかぎり少なくするよう努めること。
- (4) ボールコックには残水を完全に排水できるようパイプ(10mm)に傾斜をつけドレンコックを設けること。

7 呼び水装置

呼び水装置は、吸水量 1,000ℓ/min（吸水高 3m）のとき、バルブを全開しても落水せず、60 秒以内に揚水を完了できるもので、揚水確認が容易にできる通水確認装置を設けること。

8 中継口

- (1) 中継口は、ポンプ室両側に各一個設け、65mm ボールコック（ストレーナー付き）を取付けること。
- (2) ボールコックには、残水を完全に排水できるようパイプ(10mm)に傾斜をつけドレンコックを設けること。

9 放水口

- (1) 放水口は、ポンプ室両側に各二個設け 65mm ボールコックを取付けること。
- (2) ボールコックは、高圧力においても容易に開閉操作ができること。
- (3) 放水配管及びボールコックの残水を完全に排水できるよう傾斜をつけドレンコックを設けること。
- (4) 自動放口閉塞弁（天頂バルブ）については、車が傾斜しても自動的に閉じる構造とすること。

10 冷却水配管

- (1) ギヤケース、エンジンオイル及びラジエター水の冷却のため冷却水配管を放水配管から取出し設けること。
- (2) 配管は、一系統にまとめバルブで調整でき、調整バルブに予備回路を設け、それぞれにストレーナーを設けること。（ストレーナーの清掃が容易に出来る構造とする）

11 ポンプ操作装置

- (1) ポンプ操作に必要な各装置はポンプ室左右に設けること。

- (2) ポンプ操作装置は、視認性に優れた LED バックライト式高解像度 7 インチ以上のカラー液晶で、操作スイッチは画面と一体式に取付けられている押しボタンスイッチにより、運転及び画面切り替え等の操作が容易に出来るものとする。
また、画面には吸水口、中継口及び放水口の開閉表示、真空ポンプの作動表示、冷却水の通水不良表示、タンクの放水可能時間を表示するほか、主ポンプの運転状況及び放水時において、各放水口の水の流れが把握でき、個々の流量表示ができること。
- (3) ポンプドレンコックの開閉は、PTO と連動式とすること。
- (4) 真空ポンプ作動方式は電動ワンタッチ式操作ボタンとし、ポンプ室両側に設け、予備操作装置をポンプ室右側に設けること。
なお、真空ポンプの停止スイッチは筒先要員の安全確保の為に緊急時減圧機能（エンジン回転を一気にアイドルリングまで下げる）を兼ね備えること。
- (5) スロットハンドルは電子スロットル式とし、右回転でスロットルアップしスロットルの開度変更（開度 4 パターン方式）ができること。
また、自動調圧装置を左右に取付けること。
- (6) 操作装置左右（計器板）に揚水確認灯を設けること。
- (7) 操作装置左右（計器板）に PTO スイッチ（ON・OFF）を設けること。
- (8) メンテナンス対応の迅速化のため、故障原因判定機能を設け、不具合時の対応フローチャートをディスプレイ内で確認できること。
- (9) 点検を容易にするため、液晶パネル内に真空テストボタンを設け、エンジン OFF にしなくてもポンプ操作装置に設けられた PTO スイッチの OFF のみで湿気確認が可能なこと。

12 水槽

- (1) ポンプ室後方に容量 1,500ℓ（ステンレス製）の角形的水槽を設置し左右側板に水量計、補給口（逆止弁付）各 1 個を取付け、上部にオーバーフローパイプ及びマンホールを、下部にドレンバルブ（パイプ径 50mm 以上）を設けること。（バルブハンドルはステップ下まで延長すること。）
また、水槽はポンプによる自己補給が可能であり、ポンプへの補給口並びに排水口が設けられ、配管には緩衝装置を施していること。
- (2) 水槽より主ポンプへの吸水配管は 90mm ボールコック付きとし、配管にはビクトリックジョイントを取付けること。
- (3) 主ポンプより水槽への送水配管は、65mm ボールコック付きとし、配管にはビクトリックジョイントを取付けること。
- (4) 水槽内部には防波板を設け、清掃に便利な構造であること。
- (5) 水槽の艀装材料の厚さは次によるものであること。

ア 側板	4.0mm 以上
イ 底部	6.0mm 以上
ウ 上部	4.5mm 以上の縞板であること
- (6) タンク上部はアルミ縞板でフラットにするとともに、後部はホースカー上部まで覆うこと。
- (7) 電子式水量計を取付けること。

13 ホースカー

ホースカーは、65mm×20mホース8本及び50mm×20mホースが3本積載でき、できるかぎり軽量化し、タイヤはノーパンクタイヤとする。(4段積み)
なお、50mmホース3本は箱型ケースに収納し、ケースは取外しができ、取手は折りたたみ式とする。

65mm、50mm管槍立て及び分岐管立てを取付け、内貼り式カバーを設置すること。

14 車体の構造

(1) 艀装材料の厚さは次によるものとし、フロアステップ及びバンパー上部リアフェンダー上部、その他必要とする部分はアルミ縞板であること。

ア 側板	1.6mm 以上
イ サイドエプロン	1.2mm 以上
ウ フェンダー	1.0mm 以上

(2) ボデー側板は一般構造用圧延鋼材を使用して周辺を外側に折り曲げ加工とし車体上部より側板を高くした箇所左右に、LEDライト(大阪サイレン LIA-200 側板にスイッチ付き)を取付けること。

なお、加工部位はケガ等しない様に研磨する。

(3) サイドステップ及びリアステップは、縞アルミ板で外端部を折り曲げ加工とする。

(4) ポンプ室上部にホース等の積載ができる収納庫(およそ間口800mm高さ600mm)を設け、ポンプ点検用の扉を出来るだけ大きく設け、中央付近には棚を作成すること。

左右扉は、鍵付きシャッター(大阪サイレン 33B型)で、照明灯(LEDライト MYSB-L9-W)を設けること。(スモール連動、スイッチ付き)

(5) ポンプ室の側板は、天板より200mm程度高くし、吸水及び放水コックの補修に必要な箇所は取外しの出来る構造とする。

(6) サイドステップはキャビン付近まで設け、車体右側は、車両のメンテナンス性を考慮し、容易に脱着可能な構造(ビス止め等)とすること。また、車体左荷台先端部から左リアフェンダーのステップ上に収納ボックスを設けること。

(およそ間口1,200mm高さ330mm奥行き350mm)

なお、安全上扉は180°開き、補助ロックを各2個取付けること。

(7) リアフェンダー上部、左右側板部にホース収納ボックス(およそ700×450×315mm)を出来る限り低く設け、取付けること。(鍵付きシャッター)

(8) 左右吸水管の渦巻中央にBox(出来るだけ大きく作成)を設け、Box内に棚を作成し2段に間仕切りすること。

なお、扉には、安全上補助ロックを各1個取付けること。

(9) タンク室後部に器材収納庫及びホースカー取付け装置を設けること。

ア 内部は2段に仕切り、上段は二重巻きホースが立てて入る高さ以上で器材を多く収納出来るようスペースを考慮する。

イ 室内灯(LEDライト MYSB-L9-W)は2段共スモール連動スイッチ付きを取付けること。

ウ ホースが倒れないよう可動式の間仕切り板(⊥型3個)を作成し自動昇降

- 装置用油圧ポンプ部保護カバーを取付けること。
- エ 2段とも50mmの敷居を取り付け、鍵付きシャッター（大阪サイレン 33B型）でホースカーを完全に覆うこと。
- オ 発電機及び照明器具をセットで設置し、取出しがスムーズな構造とする。
- カ 後部シャッター上部にLEDライト2個（大阪サイレン LIA-200 側板にスイッチを取付け）を取付けること。
- (10) 左吸水管上部、側板部に折り畳み梯子「KS-2-42」を可能な限り低く取付けること。
- (11) 前席中央にボックスを設け、スイッチ類は大阪サイレン SBW-D1、電子サイレンアンプ及び無線機、ワイヤレスマイク用アンプを取付ける。（夜間見易いように照明付き）ダッシュに入るものは、ダッシュに取付けること。
なお、AVMモニターを後部座席より操作しやすいようボックスに取付けること。（ボックスサイズ等別に協議）
- (12) 三連梯子取付け装置は、側方昇降タイプ（手動式）で（7）の右側ホース収納ボックス上部で2ヶ所以上のロックで堅固に取付け、極力低い位置に梯子を確実に固定できる構造とする。（三連梯子 支給品）
- (13) とび口は、側板上部内側に取付けること。
- (14) 車体の後部左側に昇降用梯子（ステンレス製）及び荷台上部に手すりを取付けること。（主管幅 250mm 以上）
- (15) 金てこ、消火栓開閉金具（大箱ネジ回し）は、昇降梯子内側に、剣先スコップは左吸水管ステップ下に取付けること。
- (16) 器材積載部には、スノコを取付けること。
- (17) ホースカー自動昇降装置用シリンダー等はシャーシーより上部に取付け操作方法は電動及び手動でも可能な構造とすること。
- (18) フロントバンパーへシャックルを取付けること。
（寸法等別に協議）
- (19) エアークリーナーインテーク部分は、内部に水等が入らない構造とし、保護板等を取付けること。

15 外装部

手すり及び部品等は可能なかぎりステンレス製を使用し、メッキ可能な積載品は、全てクロームメッキを施すこと。

(1) 塗装

ア 車体は、特殊化学液にて充分錆落としのうえ、りん酸塩被膜を形成後プライマー、パテ水研ぎ、サーフェーサーを行い、朱色アクリルウレタンにて3回以上の吹き付けを行い充分乾燥させること。

イ 収納室内はグリーン塗装とする。

ウ ポンプ関係及びシャーシーフレームは、メーカー標準色の塗料で入念な塗装を行うこと。

- (2) 各操作レバー、バルブ及びコック類には文字の消えにくいネームプレートを設けること。
- (3) 後席ドア、標識灯及びキャビン上部に指定の文字を記入すること。
- (4) 蹴り込み部分及び資機材取付け場所には、可能な限り保護板を貼り付ける

こと。

16 取付品及び取付装置は次に掲げるもの

- | | |
|---|-----|
| (1) ポンプ圧力計 | 2 個 |
| (2) ポンプ連成計 (リタード式) | 2 個 |
| (3) エンジン回転計 | 1 個 |
| (4) エンジン油温計 | 1 個 |
| (5) 赤色警光灯 | |
| ア キャビン上部(大阪サイルン NF-L-VAK2M-HC2) | 2 個 |
| イ フロントパネル(大阪サイルン LFA-150 型 保護枠付) | 2 個 |
| ウ リアエプロン(大阪サイルン LFA-200 型 保護枠付) | 2 個 |
| (6) 電子サイレン(大阪サイルン TSK-D152) | 1 個 |
| 署用標準搭載メッセージが使用できること。(音声キャンセルスイッチ、マイク及び出動予告放送付) | |
| (7) 照明灯 | |
| ポンプ室上部に LED ライト (小糸製作所 MYS-75LP 型 カバー付) を設け、支柱 (FRC 社製) は 1m 以上上下するものとし、車両のバッテリーから電源を供給する構造とすること。 | |
| また、キャブタイヤコードを防水すること。 | |
| (8) 後退警報器 (夜間停止式) | 1 個 |
| (9) 後方視界用カラーモニターをリアエプロン中央上部に設け、キャビン内のルームミラー型モニターで常時確認できること。(カメラに保護板を取付) | |

17 軽微な変更として備えることができる取付品及び取付装置は次に掲げるもの

- | | |
|--|--------------|
| (1) 電子式流量計 | |
| なお、流量計は国際技研とする。 | |
| (2) 電動キャブチルト装置 | |
| (3) オイルパンヒーター コード 10m 付き (コード接続部は外付) | |
| (4) 不凍液注入装置 | |
| (5) 車外無線ボックスをポンプ操作盤の近くに左右埋込式とする。 | |
| なお、車両動態装置の車外設定器、スピーカー・ハットセットを取付け収納すること。 | |
| (6) ワイヤレスマイク装置 (ユニペックス) | |
| 車載用ワイヤレス受信機 (チューナー内蔵) | NDW-301 1 個 |
| 車載用ワイヤレス受信アンテナ | AA-3800B 2 個 |
| ワイヤレスマイク | WM-3000A 1 個 |
| (7) バッテリーメインスイッチを設けること。 | |
| (8) キャビン内 PTO スイッチ付近に、夜間でも見やすいように照明 (LED ライト) を取付けること。(別に協議) | |

18 積載品及び付属品

- | | |
|-------------------|--|
| (1) 備えなければならない付属品 | |
|-------------------|--|

品名	数量	備考
吸管(ラセンライン)	2本	75mm×10m (エルボ`付き) WS200MZ
吸口ストレーナー	2個	
吸管ストレーナー	2個	(IWA製)
吸管ちりよけ籠	2個	(IWA製ヒッパラー媒介、差込オス媒介付)
吸管まくら木	2個	木製
吸管ロープ	2本	10mm×12m (ナス環付)
消火栓金具	2個	75mm メスネジ×65mm 差込メス
中継用媒介金具	2個	65mm メスネジ×65mm 差込メス(ストレーナ付)
消火栓開閉金具	2個	地上式用、地下式用
吸管スパナ	2丁	
管そう	2本 1本	C型 65mmオスネジ×50mm差込メス 350mm (バンド付) C型 65mmオスネジ×65mm差込メス 350mm (バンド付)
ノズル	2本 2本 3本 各1本	スパコンノズル NH-50SC ブルーデビル ダブコンマークⅡ 水用ノズル (23、26mm) 取付
放口媒介金具	4個	65mm メスネジ×65mm 差込オス ヨネ製
とび口	2本	約1.8m (柄は樫)
金てこ	1本	約0.8m
剣先スコップ	1丁	左ステップ下部へ取付
ポンプ工具	1式	
車輪止	2個	プラスチック製 (蛍光色)
消火器	1本	自動車用 (ABC 粉末6kg)
はしご	1梯	KS-2-42 関東梯子
ホース延長用資機材	1台	65mm×8本 50mm×3本積用 (ホースカー)

(2) 軽微な変更として備えることができる附属品

品名	数量	備考
タイヤチェーン	各1個	シングル用 (SCC Japan 製)
分岐管	2個	65mm×65mm 差込メス 2線個別 (マルチコネクタ式 1個含む ヨネ製)
ホースブリッジ	1式	幅 450mm

照明器具	各 1 個	L E D 投光器 (Nomad360) ホンダ EU18i (カバー付)
斧	1 丁	
掛矢	1 丁	胴径 150mm 以上
スタンドパイプ	1 本	単口引き上げ式 PS65 700mm (ヨネ製)
コードリール	1 個	30m 125V-15A 2P×4
媒介金具	各 1 個 4 個	65mm 差込ス×65mm 差込ス、65mm 差込ス×65mm 差込ス 65mm 差込ス×50mm 差込ス (ヨネ製)
ピックアップ式泡ノズル	1 本	200ℓ/min ピックアップチューブ付
カゴフォーム AGF-3T	2 本	20ℓ×2 (保護カバー付)
新型消火栓キー	1 組	
アルミボックス	2 個	1100mm×500mm×500mm (取手付)
ホースバンド	5 個	OH-10
両端ワイヤーロープ	1 本	10m 圧縮止 8mm
クリッパー	1 個	MCC 製 BC-0760 10mm 対応 長さ 600m
携帯用破壊器具	2 個	トップマントビ
ホース漏水防止バンド	10 個	マジックテープ式
強力ライト (乾電池式)	2 個	パナソニック BF-BS05P 乾電池付
工具	1 個	KTC SK35622WZ
伸縮カラーコーン 点滅ライト付き	5 個	乾電池、ケース付 (モリタ AA-001-24-L)
マンホール蓋開閉器具	1 個	OGA 用バール H-1K (株式会社オカモト製)
ガラス柄両口ハンマー	1 個	柄 ガラスファイバー (900mm)、頭 4.5kg
機関員用ベスト	1 着	
ディスクストレーナー	1 個	D75S (ゴミ取りネット 5 枚付き)

19 その他の艤装及び装備品

- (1) 消防章を車体前部中央付近に、エンブレム一体型で赤色台座に取付けること。
- (2) 標識板 (岐阜市) をフロントパネルに取付けること。(サイズは別に協議)
- (3) 後輪照射灯 (LED ライト PY-9268RR) 左右サイドステップ下部に取付けること。
- (4) 泥よけを 4 輪に取付けること。
- (5) キャブ内に地図等収納箱兼格納式机を設けること。(サイズ等別に協議)
- (6) キャブ中央に大型室内灯を設けること。(LED ライト)

- (7) キャブ内に大型デジタル時計を設けること。
 - (8) 全席に防汚シートカバーを取付けること。
 - (9) 収納庫、ボックス内全てにすのこを設けること。
 - (10) ポンプ操作装置左右に、LED ライト(側板折り曲げ部下側に LED ライト MYSB-L18-W) を、後部ホースカー上部に LED ライト (LED ライト MYSB-L9-W) を取付けること。
 - (11) 車両動態装置 (AVMGPS)
 - 既存の車両に積載してある車両動態装置 (AVMGPS) を取外し納入する車両に取付け、アンテナ及びモニターは専用台を設け配線貫通部は専用の防水金具を使用し、取付けること。(配線及びアンテナ等は新品を使用すること。)
 - なお、以下の端子を装備した車両位置動態車載端末装置アダプターボックスを取付けること。
 - ア バッテリープラス端子
 - イ バッテリーマイナス端子
 - ウ ACC 端子
 - エ 車速パルス信号端子
 - オ バック (後退) 信号端子
 - (12) 無線電話装置
 - 既存の車両に積載してある無線機を取外し、納入する車両に取付けること。
 - なお、配線及びアンテナ、スピーカー等は新品を使用すること。
 - (13) ドライブレコーダー
 - ドライブレコーダー (STR-200、補助カメラ、専用 SD カード、再生用ソフト) 新規品を納入する車両に取付けること。
 - (14) ドライブレコーダー連動のバックソナーを取付けること。
 - (市光製バックソナー 4 箇所)
 - (15) 通信端末装置 (車載無線通信カメラ)
 - 既存の車両に積載してある通信端末装置 (車載無線通信カメラ) を取外し、納入する車両に取付けて、配線貫通部は専用の防水金具を使用し取付けること。(配線等は新品を使用すること。)
 - (16) 既存の車両を予備車として使用するため、無線と AVM を予備車から移設すること。
- 20 キャビン内助手席に、埋め込み式の空気呼吸器取付け装置を取付け、長時間の移動の際に苦痛にならないよう考慮すること。
- (レスキューシート クイックホルダー内蔵)
 - また、後部に空気呼吸器取付け装置を 3 個取付けること。
 - (クイックホルダーは、アタッチメントで、60、80 ボンベに対応できること。)
 - (クイックホルダー) 1 式 3 セット
- (1) 着席時に呼吸器が直接背部に当たらないこと。
 - (2) 後席は、空気呼吸器取付け部下に物入れを設け、呼吸器下面にクッション材を設け、背もたれは固定式とすること。
 - (3) 面体掛けを設けること。
 - (4) 後部座席下に車両動態端末器材取付けボックスを設けること。

- (5) キャビン内のセンターピラー間に、強度の高いパイプを後部座席用手摺りとして設け、S型ロープ掛けを3個取付けること。

21 記入文字

文字（丸ゴシック体カッティング）は、キャビン上部に対空表示「岐柳1」（縦60cm、横50cm出来る限り大きく）白色テープ、左右後部ドアに「岐阜市消防本部」（縦12cm、横10cm、リフレクサイトAP1000DL）標識灯は黄色地に「柳津」と黒色テープで貼り付け、標識板はフロントパネルに、「岐阜市」（真鍮製）と取付けること。（文字は左読みとする。）

また、リアシャッターに黒色で「柳津T」及び「GIFU CITY FIRE DEPT.」「SINCE1948」を貼り付け、車両左右に再帰性に富んだ反射材を貼り付けること。（サイズ等別に協議）

第4 検査

1 中間検査

各艤装部分及び取付け品の位置、固定方法等について艤装中本部職員をして中間検査を実施するものとする。（艤装メーカー営業担当者及び製造担当者が立ち会うこと。）

2 完成及び検収検査

新規登録検査に合格後、本部が本仕様書に基づいて各種検査を実施し、全てが良好と認め受注者から車両を受領して完了する。完了後、受注者は納品書を本部へ提出すること。

しかし、検査の結果、本部が不合格と認めた箇所については、受注者は速やかに改修し再検査を受けること。

なお、改修等に要する費用は受注者負担とする。

第5 補則

- 1 本仕様書に定められない事項でも、受注者が公表している仕様工作上において、当然なことはこれを施工すること。

- 2 資器材等については、努めて軽量化を図るものとする。

ただし、強度を保ち変形しないこと。

なお、軽量化に伴い変更の場合は本部と協議をすること。

- 3 完成車は、中部運輸局岐阜陸運支局の行う新規登録検査及び緊急車指定申請手続きを完了後に本部へ納入する。

- 4 自動車損害賠償責任保険料、登録手数料、その他新車登録手続きに必要な経費（重量税を除く）は受注者が負担する。

- 5 完成車は、新規登録検査に合格後、各部の給脂等の点検整備を入念に実施し、燃料を満量にして納入検収を受けること。

- 6 使用資器材等及び艤装による不備欠陥等による故障破損等については、双方協議のうえ、速やかに修理若しくは交換すること。
- 7 保証期間は、納入検収後1年間とする。
- 8 完成車の納入期限は、令和5年3月31日とする。
- 9 台数 1台
- 10 納入場所
岐阜南消防署柳津分署
岐阜市柳津町丸野2丁目170-1

以上

※ 担当 岐阜市消防本部消防課 林 TEL058-262-7162
FAX058-266-8154